

2024年度事業報告



学校法人 城星学園

はじめに

学校法人の健全経営とともに充実発展をはかるため、2024年度においては、理事長の「中期および2024年度基本方針(別掲)」に基づいて、各校種が一つになって、学園の建学の精神のもとに教育活動を推進した。学園創立70周年を経て地域に開かれた学園としての様々な取り組みを開始するなど新たな歩みを始めており、AIに代表される時代の変革や少子化の波の中にあって、学園の教育活動において変革できることと、守るべきことを峻別しながら、教育環境の整備、教育活動のさらなる充実をはかってきた。その過程において創立者ドン・ボスコの「子どもを愛するだけでは足りない、子どもが愛されていると感じなければならない」という言葉に代表される教育理念を再認識し、その教育理念のもとに、今後も本学園の教育活動を展開していく。

また、外部に対する情報公開とともに積極的な自己点検評価・学校評価が求められており、2024年度においても学園後援会との連携のもと、全保護者対象のアンケートを実施し、貴重なご意見が多数寄せられた。その結果を学園の教育活動に活かしながら、2024年度学校評価としてまとめた上で情報公開するとともに、2025年度に向けてさらに充実した評価活動の実施と教育活動のさらなる充実・推進に繋げていきたい。

《中期および2024年度基本方針》

1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
2024年度：ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念の根幹にある「謙遜」と「柔和」に基づく教育活動を実践する。園児・児童・生徒らを敬愛し、和やかなアシステンツァを日々励行する。
2. 園児・児童・生徒・教職員が“Niente ti turbi.”（「何も恐れることはない」）を実感できるような教育環境を創造する。
2024年度：安全委員会・衛生委員会の活動を通じて得られた知見を教職員全体で迅速に共有する。教育環境・勤務環境の向上、コンプライアンスの向上につながる研修の機会を増やす。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
2024年度：姉妹校をはじめとするカトリック学校園との協働や相互研修を通じて、学園教職員の教育的知見の深化を図る。園児・児童・生徒らの自主的・積極的な学びを刺激する教育技術の向上を学園全体として追求する。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
2024年度：施設更新計画を踏まえ、長期的な視野に基づく未来ビジョンの構築に着手する。学園教職員のさまざまな視点を取り入れて情勢分析を進め、未来ビジョンの精緻化を図る。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
2024年度：「城星ファミリー」の人びとの共感・理解を深められるよう、学園の未来ビジョンをより積極的に発信する。イベントへの協力などを通じて、地域社会・教会関係の人びととの交流を深める。

《 2024年度取り組み事例》

- ・旧修道院取り壊しに伴い、幼稚園増築園舎2階多目的室を修道院兼管理室として改修。
- ・小学校校舎新築工事のための小聖堂・旧修道院取り壊しの開始に伴い、園児・保護者が幼稚園に安全に出入りできるよう、幼稚園専用北側出入口を設置。
- ・小学校校舎新築工事資金に充てるため、テニスコート敷地を売却。
- ・2025年度からのヴェリタス城星学園高等学校共学化に向けて、高校棟1階に男子トイレを設置するとともに、同3階の女子トイレを男子トイレに改修。また、同1階女子トイレをすべて洋式便器にするなどの改修実施。
- ・大阪市中心区役所と包括連携協定を締結するとともに、学園体育館を大阪市の指定避難所とするための協定を同区役所と締結。
- ・「学びの森」プロジェクトによる高等学校での探究型学習の強化と進路指導の充実。
- ・高等学校海外留学制度の充実。
- ・カトリック大学、有名私立大学との高大連携による進路指導の充実。
- ・総合スポーツ教育センターの開設と小学校放課後学童保育「城星オラトリオ」の運営、ならびに同センタースタッフによる高校水泳部の指導。
- ・2025年度から小学校、幼稚園の各給食を毎日提供するための準備。
- ・ドン・ボスコ子ども未来センター開設（教育相談のほか、多面的サポートの実施）。
- ・「城星友の会」行事の企画・運営、大阪市中心区役所との包括連携に基づく各種イベントの開催と、それらを通じての開かれた学園づくり。
- ・園庭における野菜栽培を通じての幼稚園の食育推進。
- ・幼稚園における保育環境のさらなる充実。

次頁より、各校種の教育活動等について報告する。

1. 法人の概要

建学の精神 : 城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命とする。

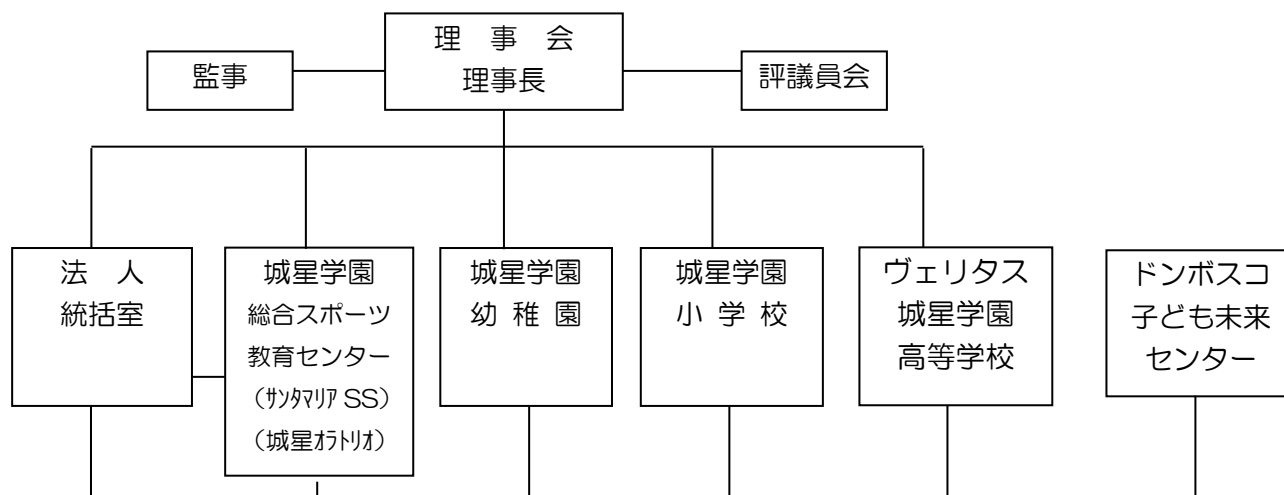
所在地 大阪府大阪市中心区玉造2丁目23番26号

法人成立の年月日 昭和28年3月25日

学校設置認可年月日

幼稚園 昭和28年3月16日
小学校 昭和28年3月16日
中学校 昭和34年2月27日（令和6年8月22日廃止）
高等学校 昭和37年1月14日

学校法人 城星学園 組織図（2025年4月1日現在）



1) 設置学校及びクラス数

(2025年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	城星学園高等学校（全日制普通科）
3 年保育 3 クラス	1 年 4 クラス	1 年 キャリア進学コース 1 クラス、キャリア探究コース 2 クラス
2 年保育 3 クラス	2 年 4 クラス	2 年 Allegro コース、Vivace コース混合 2 クラス
1 年保育 3 クラス	3 年 4 クラス	3 年 Allegro コース 1 クラス、Vivace コース 1 クラス
計 9 クラス	4 年 4 クラス	計 7 クラス
	5 年 4 クラス	
	6 年 3 クラス	
	計 23 クラス	

(2024年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	城星学園高等学校（全日制普通科）
3 年保育 3 クラス	1 年 4 クラス	1 年 Allegro コース、Vivace コース混合 2 クラス
2 年保育 3 クラス	2 年 4 クラス	2 年 Allegro コース、Vivace コース混合 2 クラス
1 年保育 3 クラス	3 年 4 クラス	3 年 Allegro コース 1 クラス、Vivace コース 1 クラス
計 9 クラス	4 年 4 クラス	計 6 クラス
	5 年 3 クラス	
	6 年 3 クラス	
	計 22 クラス	

2)定員および在籍者数(各5月1日現在)

年 度	幼稚園 (定員 280)		小学校 (定員 600)		高等学校 (定員 450)		計	増減 (対前年度)
	ｸﾗｽ	現員	ｸﾗｽ	現員	ｸﾗｽ	現員	現員	
2025	9	253	23	670	7	152	1,075	+29
2024	9	266	22	665	6	115	1,046	△14

3)役員等・教職員

役 員 等:

年 度	理事	監事	評議員
2025	7 人	2 人	17 人
2024	8 人	2 人	17 人

教職員：

(5月1日現在) (人)

年 度	幼稚園			小学校			高等学校			法人統括室			総合スポーツ教育センター			計
	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	その他	
2025	13	5	11	28	12	4	16	6	16	7	4	2	5	2	32	163
	計 29			計 44			計 38			計 13			計 39			
2024	12	5	10	28	11	2	15	5	18	8	2	2	5	2	28	153
	計 27			計 41			計 38			計 12			計 35			

4) 役員会の開催

① 理事会・評議員会

理 事 会：	2024 年 5月 2024 年 8月 2024 年11月 2025 年 3月	評議員会：	2024 年 5月 2024 年 8月 2024 年11月 2025 年 3月
--------	--	-------	--

② 監 査： 2024 年 5月
2025 年 3月(17日・25日)

2. 募集計画及び教育計画等

()は内部進学者数。

年度	区 分	幼稚園			小学校	高等学校
		3年保育	2年保育	1年保育		
2026	新入生募集人員	90	若干名	—	約100	140
2025	新入生募集人員	84	若干名	—	100	140
	志願者数	132	5		190	115
	受験者数	111	5		174	113
	合格者数	91	4		137	113
	入学者数	78	3		114(47)	80
2024	新入生募集人員	84	若干名	—	100	75
	志願者数	127	6		246	49
	合格者数	95	4		145	46
	入学者数	84	4		122(46)	35(14)

学校法人城星学園 中期行動計画-2024 年度のふりかえり

建学の精神:

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ(ドン・ボスコ)の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

教育理念:

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

【中期方針・2024 年度部門別行動計画及びその評価】

《次頁以下のとおり。》

法人統括室

中期方針	2024 年度方針	中期行動計画	2024 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念の根幹にある「謙遜」と「柔和」に基づく教育活動を愚直に実践する。園児・児童・生徒らを敬愛し、和やかなアシステンツァを日々励行する。	ドンボスコ・マリア・マザレロの教育理念を根幹とした「謙遜・柔和」に基づく教育活動を理解し、後方支援活動を充実していく	(1)各校種の教育活動への後方支援を積極的に行う(イベント補助・入試補助など)。	教育理念・教育活動への理解の深化	○
			(2) 様々なお祈りの言葉を朝礼の際に積極的に取り入れ、ドンボスコやマリア・マザレロの考えをより深く知るきっかけとする。 電話対応や来客対応をより一層丁寧に行い学園のイメージアップへつなげる。	学園では様々な祈りを唱える機会があるため、法人統括室でも全員が主要な祈りは暗唱することを目指す マナーアップの強化	△
			(3)敬愛と和やかなアシステンツァを通じて、謙遜と柔和の教育理念を実践し、生徒らとの深い結びつきを築く。	アシステンツァの精神を基礎として子どもたちとの結びつきを深める	△

2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	安全委員会・衛生委員会の活動を通じて得られた知見を教職員全体で迅速に共有する。教育環境・勤務環境の向上、コンプライアンスの向上につながる研修の機会を増やす。	安全衛生の徹底と管理体制の維持充実、教育環境の整備を正しい精査の元、行える組織体制の構築を目指す	(1)1. 防犯・防災訓練の実施 2. 教職員からの意見を吸い上げた教育環境整備の実施	防犯・防災時の対応力強化と、より安全な教育環境の構築	△
			(2)全教職員の安全と健康を産業医・衛生委員会と連動し先導していく。 統括室内各部署で情報共有を確実なものとする。	安全衛生の知識を強化し、教職員のメンタルヘルス向上を目指す/ 補助金申請等で使用する学園の情報、各校種からの申請等の共有を確実なものとし、情報を一本化する	△
			(3)安全委員会と衛生委員会の活動を通じた知識共有を促進し、教育・勤務環境を向上させ、コンプライアンスを強化するための研修を行う	正しい知識を活かして職場環境を向上させる	△
3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	姉妹校をはじめとするカトリック学校園との協働や相互研修を通じて、学園教職員の教育的知見の深化を図る。園児・児童・生徒らの自主的・積極的な学びを刺激する教育技術の向上を学園全体として追求する。	緩やかなカトリック学校の連携・その他研修での他校との交流を活かし、学びの交流をはかり、得た学びを学園に還元する	(1)他校の見学及び意見交換会の実施またはカトリック学校研修会への積極参加。	学園内業務フローの精査及び効率化	△
			(2)研修会に参加し積極的に他校と交流を図る。運営・業務遂行状況を知り、本校で取り入れられるものには積極的にチャレンジする。	事務職員全体のスキルアップと俯瞰的に自分たちの立ち位置を顧みる力の強化	△
			(3)学園教職員と園児・児童・生徒の自主的な学びを促進するため、協働研修と教育技術の向上を重視し、持続的にスタッフの研修の取り組みを推進する。	スタッフ研修の内容と頻度を充実させる	△

4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	施設更新計画を踏まえ、長期的な視野に基づき未来ビジョンの構築に着手する。学園教職員のさまざまな視点を取り入れて情勢分析を進め、未来ビジョンの精緻化を図る。	コラッジョ(総合スポーツ教育センター)の強化と共に、総合学園としての強みを生かした情報共有体制の構築を行う	(1)1. コラッジョと法人統括室の定例会議の実施(月1回) 2. 全校種向け決算報告会の実施	校種間の連携強化を深め学園全体単位での現況を知る	△
			(2)オラトリオの概要をコラッジョと共有し、後方支援をよりスムーズにする。 今後も円滑なコミュニケーションを図り、臨機応変に相互協力できる体制を強化する。	コラッジョとの情報共有を行い、法人統括室職員もオラトリオを盛り上げる	△
			(3)教職員の視点を活用し、施設更新と未来ビジョンの調和を図る。	今後構築する施設を教職員目線での意見として言語化する	△
5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	「城星ファミリー」の人びとの共感・理解を深められるよう、学園の未来ビジョンをより積極的に発信する。学園施設の貸出やイベントへの協力などを通じて、地域社会・教会関係の人びととの交流を深める。	施設更新計画を踏まえ、今こそ「城星ファミリー」の絆をより深め、未来に通じる道を共に手を取り切り拓く	(1)後援会・コラッジョと連携を取り、城星フェスタ及びその他イベントを実施する。また、地域イベントへの協力・協賛を行う。	教育施設のみでは無く地域に開かれた城星学園を目指す。	○
			(2)後援会との連携を密にして今後の発展のために新しい形のフェスタや学校行事への取り組みを共同して模索する 難しい事象が発生した際、即座に周りに相談・共有し事態の悪化を抑える	後援会との連携を更に密とし新しい城星学園を模索する 問題を各部署で抱えず、全体共有をして早期解決をはかる	○
			(3)城星ファミリーとして各校種のサポートを積極的に行う。	コラッジョとしての存在意義を高める	○

6.教育計画		2024年度学童保育「城星オラトリオ」の運営安定と発展のビジョンを明示する。	安全で快適な施設や環境を整え、子供たちが育ちやすい空間を提供する。	オラトリオを学園母体の安全安心な施設であると周知する	△
			遊びを通じて学ぶ場面を増やし、教育的な活動と遊びのバランスを保つことを重視する。	楽しく遊びながら学ぶドン・ボスコが確立したオラトリオの再現	△
7.募集計画		学園全体の広報活動を展開していく中で、園児・児童・生徒の募集に寄与していく	(1) 学園 HP のこまめな更新、広告掲載場所の精査。 後援会・地域の方と積極的にコミュニケーションを取り、アットホームな学園であることを肌で感じてもらう。	ネームバリューの向上。ブランディング強化。	△
			(2) 総合スポーツ教育センタースタッフにより、SS、オラトリオでイベント活動を活発に行い地域に密着した活動を行う。	地域に向けたイベントを増やし、地域密着型の学園であると周知する	△

幼稚園

中期方針	2024 年度方針	中期行動計画	2024 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念の根幹にある「謙遜」と「柔和」に基づく教育活動を愚直に実践する。園児・児童・生徒らを敬愛し、和やかなアシステンツァを日々励行する。	・ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念を理解し、実践に生かせるように教員研修に努める。 ・「謙虚」と「柔和」に基づく教育活動の重要性を認識し、日々の活動の中に意識付ける。	カトリック精神に基づいた保育活動の実践と、さらなる深化充実に向け園内外の研修を学期に1回以上もつ。	サレジアンファミリーとしての自覚と意識改革を前提とした日々の行動変容の出現	○
			「予防教育法」の理解を深めるための研修内容を吟味し、日々の保育活動に活かすことができているかどうかの振り返りを行う。	学園の特長の発信による保護者との信頼関係構築かつ子供の育成への寄与	○
2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	安全委員会・衛生委員会の活動を通じて得られた知見を教職員全体で迅速に共有する。教育環境・勤務環境の向上につながる研修の機会を増やす。	・子どもたちに必要な能力を理解し、その能力育成のために必要な教育環境の整備に努める。	主体性や創造性、協調性などを育むための教育内容や教育環境を他園などを参考にしながら、取り入れる。	さらに子ども一人ひとりの思いや願いを大切にした教育内容への変容	○
		・安心安全な生活を目指すうえで、様々な危機管理意識を醸成する。	様々な防災・防犯訓練を実施し、教職員・園児の危機管理意識の向上を図る。	教職員・園児の危機管理に対する意識改革と日常の行動変容	○
		・教職員自らの資質向上、コンプライアンスの向上に向けた研修の機会をもつ。	業務の ICT 化を進め、指導計画のデータ化を進める。 個人情報などの取り扱いについてコンプライアンス意識を向上させる	時間外勤務の削減、働き方改革の推進	△

3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	姉妹校をはじめとするカトリック学校園との協働や相互研修を通じて、学園教職員の教育的知見の深化を図る。園児・児童・生徒らの自主的・積極的な学びを刺激する教育技術の向上を学園全体として追求する。	・園内外の研修の深化充実を図り、獲得したスキルの伝達講習を实践する。 ・育てたい子ども像を共有し、それを目指す園内研修テーマを策定し実践に活かす。	カトリック園の研修や外部の研修に積極的に参加し研修を深める。全教職員のスキル獲得を目指して、伝達講習会をもつ。	園児一人ひとりが神のまなざしのもとで誠実の行動し善を選び取れる人格形成の基礎作り	○
			自己肯定感・コミュニケーション能力を育む保育内容に照準を合わせた園内研修テーマを策定し公開保育を伴った園内研修をもつ。	園児の主体性や協調性の醸成のための保育内容の改革	○
4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	施設更新計画を踏まえ、長期的な視野に基づく未来ビジョンの構築に着手する。学園教職員のさまざまな視点を取り入れて情勢分析を進め、未来ビジョンの精緻化を図る。	・他校種、総合スポーツ教育センターなどとの連携の形を模索し、学園全体の案件について、教職員間の意見交換の場を設定する。	各校種の行事や日常の活動(保育内容)の中で積極的に交流の場を企画する。	他校種との交流による親近感やあこがれの心情の醸成内部進学の拡充	△
			教職員間の意思疎通を図るべく校種の垣根を超えた場づくりに努める。	各校種の課題を共有し協働的な解決方法の模索	○
5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	「城星ファミリー」の人びとの共感・理解を深められるよう、学園の未来ビジョンをより積極的に発信する。学園施設の貸出やイベントへの協力などを通じて、地域社会・教会関係の人びととの交流を深める。	城星学園を取り巻く様々な支援組織・団体との連携を深める。	学園、幼稚園としての社会的立場を自覚し、社会に貢献する一員として教育活動に務める。2歳児と保護者に向けた体験活動を計画する。	地域に幼稚園の教育活動を発信し、認知度の向上	△

6.教育計画		子どもの発達段階に応じた、自己肯定感、コミュニケーション能力を育むための教育内容を構築する。	教育要領に則り、子どもの主体性や個性を尊重した、子どもにも教員にとっても、無理のない保育計画を立案する	園児の協調性や責任感の醸成、自ら考え正しく行動できる力と他者との関係における解決力の習得	○
			子どもにとって価値あるものにするために行事や日々の保育内容の精選、見直しを行う。	日々の教育活動を通じた保護者の理解と信頼の獲得	○
7.募集計画		カトリック園として、教育方針を明確にし、園としての特長をアピールした園児募集を実践する。	園の魅力や教育方針を様々な機会（幼児教室。保護者会など）や情報ツールを用いて積極的に発信する。	新入園児（3歳児クラス）3クラス90名の確保	△
			他校種（特に小学校）との連携を強化し、学園内での進路選択の拡充につなげる。	保護者理解の深化、コンスタントに30名前後の進学	△

小 学 校

中期方針	2024 年度方針	中期行動計画	2024 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念の根幹にある「謙遜」と「柔和」に基づく教育活動を愚直に実践する。園児・児童・生徒らを敬愛し、和やかなアシステンツァを日々励行する。	(A)ミッションスクールとしての意義をより強く認識する。	達成可能な個々の目標設定のもと、理想の児童像である「光の子」を育成するため、宗教研修を活性化し、カトリック教育に対する理解や教員同士の信頼関係の深化を図る。	無条件の愛情によるミッションスクールとしての存在意義の認識	○
		(B)ミッションスクールとしての特性を具現化する。	ドン・ボスコ、マリア・マザレロを初めとする諸聖人の生き方に倣い、「謙遜」と「柔和」に基づく教育活動を実践する。	「ファッチョイオ、ひと針ひと針に愛をこめて」の精神に支えられた、良心に基づいた意識の変化と行動の変容	○
		(C)保護者の理解度を向上させる。	保護者勉強会、ドン・ボスコ勉強会を実施し、ドン・ボスコ、マリア・マザレロが生きた時代の社会情勢や風土をもとに、その教育についての理解を深める。	カトリック精神、ドン・ボスコ、マリア・マザレロに対する保護者の意識高揚と教育共同体としての行動の変化	○

2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	安全委員会・衛生委員会の活動を通じて得られた知見を教職員全体で迅速に共有する。教育環境・勤務環境の向上、コンプライアンスの向上につながる研修の機会を増やす。	(A)各学年にふさわしい安全教育・健康教育を実施する。	学年別各種教室を実施する。コロナ感染症等予防教育を中心に安全で安心な登下校指導に重点を置く。年3回以上のひかりのこアンケートの実施、教員・保護者による通学路巡回指導の実施、避難訓練の実施を計画する。	児童及び教員の安心・安全な生活に対する意識高揚、具体的な行動の確認	△
		(B)危機管理研修を実施する。	心肺蘇生法研修を実施する。新1年生対象に災害時児童引渡し訓練を実施する。また、防災、防犯訓練を実施する。	週1回の校舎内運動場の安全点検及びけが0デー（毎週金曜日）の意識化	○
		(C) 教育施設、教育設備、教育環境の充実を図る。	放送設備、wifi 環境の充実を図り、児童の教育環境を向上させ教育内容の充実を図る。	アナログ教育を中心としたデジタル機器活用による学習の深化	△

3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	姉妹校をはじめとするカトリック学校園との協働や相互研修を通じて、学園教職員の教育的知見の深化を図る。園児・児童・生徒らの自主的・積極的な学びを刺激する教育技術の向上を学園全体として追求する。	(A)アシステンツァを励行する。	「いつもどこでも子どもと共に」を実践する。児童が愛されていると感じる指導の在り方、言葉のかけ方を考える。	優しさと自由に根ざした教育共同体としての信頼関係の確立	○
		(B)サレジオ一貫教育を強化を図る。大阪星光学院及びカトリック系中学校との連携を深める。	合同研修会、ほしゼミ、チャレンジゼミ、特別選抜制度を継続維持し実施する。城星特別学校説明会への参加を計画する。	サレジオ一貫教育の推進と進路指導の充実	○
		(C) 発達段階や個別能力に応じた教科研究を実施する。	児童・保護者のニーズに応えるべく、学年や教科主体での研究活動を強化するとともに、主体的で対話的な学習について研鑽を積む。	自主自律の学習意欲の向上	○

4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	施設更新計画を踏まえ、長期的な視野に基づく未来ビジョンの構築に着手する。学園教職員のさまざまな視点をとり入れて情勢分析を進め、未来ビジョンの精緻化を図る。	(A)校種間の連携を強化する。	授業参観や研究授業、校種間教員派遣等を通して、幼・小・高の教員の連携を強化する。	幼小高教員の連携強化	△
		(B) 宗教的行事、文化的行事、体育的行事等の共同実施の方向性を探る。	カトリックミッションスクールの総合学園としての在り方を模索し、多方面からの保護者の学園理解を図る。	総合学園としての連携強化	○
		(C)「城星オラトリオ」の活動内容の更なる内容充実に関して学校教育との連携を図る。	ドン・ボスコの予防教育法に根差した、かつ保護者のニーズに合致した学童保育の実施に協力する。	サレジオ家族の一員としての意識強化	○
5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	「城星ファミリー」の人びとの共感・理解を深められるよう、学園の未来ビジョンをより積極的に発信する。学園施設の貸出やイベントへの協力などを通じて、地域社会・教会関係の人びととの交流を深める。	(A)保護者と寄り添いながら共通理解を図る。	児童の発達段階に応じて話題を共有しあい、成長を確かめ合う機会をより多く持つ。適時 Zoom 配信による学級懇談会や学年懇談会の開催を考える。	家族的な雰囲気,教育共同体の一員としての自覚の促進	△
		(B) 小学校同窓会 (FDDDB) との連携を図る。	同窓会会員の結束を図るとともに、城星フェスタや学校行事、日常生活の必要に応じて教育活動に理解、協力を願う。	城星ファミリーとしての同窓会との連携	△
		(C) 地域社会の人々との関わりを深める。	児童会活動等を中心に登下校や利用交通機関等でお世話になっている方々に挨拶や感謝の気持ちを伝える活動に取り組む。	自主的かつ積極的参加によるサレジオ精神の実践化	○

6.教育計画		(A)ドン・ボスコの予防教育法に基づく信頼関係の構築	児童一人ひとりの「9歳のかべ」（不安、怖れ、恐怖、劣等感、自信のなさ、コントロール不能な状況）をともに乗り越えられる関係の構築を図る。	カトリックミッションスクールとしての使命の実践	○
		(B)宗教教育、宗教科道徳を再構築し、ミッションスクールとしての使命を果たす。	宗教教育、道徳教育、さらには全教育活動において、改めて聖書に立ち返り、研鑽を積み、教育実践を行う。	カトリック的雰囲気の溢れた学園づくり。	○

7.募集計画		(A)学校の魅力を発信する。	保育所・幼稚園・幼児塾への管理職、入試広報担当者と若い教員での訪問を行い、心と学びの根っこを育てる教育の発信を行う。また、私立小学校フェアやカトリック小学校フェアに積極的に参加する。	カトリックミッションスクールとしての発信と4クラス制、2期制の実施及び新入生約120名の確保	○
		(B)説明会・オープンスクール等を実施する。	学校説明会2回、オープンスクール2回、必要に応じて個別説明会を実施する。また、各幼稚園、塾に出張し説明会を実施する。入試後、塾等に対する入試速報会を実施する。	宗教教育をベースにした心技体バランスのとれた児童を育成する学校であることと教育改革の進捗状況の周知	○

高等学校

中期方針	2024 年度方針	中期行動計画	2024 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念の根幹にある「謙遜」と「柔和」に基づく教育活動を愚直に実践する。園児・児童・生徒らを敬愛し、和やかなアシステンツァを日々励行する。	ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念に基づいた教育を実践する	ドン・ボスコとマリア・マザレロのように、生徒が主語となるような教育に前向きに取り組む。	生徒が主語となる教育活動	△
			「謙遜で、強く、たくましい人になりなさい」との聖母マリアの勧めを具体的に実行する。	自分が貧しきものであることの認識	△
			全ての人を尊敬し、受け入れた聖フランシスコ・サレジオの柔和な心で生徒と関わる。	全ての人を受け入れる柔和な心	△
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”（「何も恐れることはない」）を実感できるような教育環境を創造する。	安全委員会・衛生委員会の活動を通じて得られた知見を教職員全体で迅速に共有する。教育環境・勤務環境の向上、コンプライアンスの向上につながる研修の機会を増やす。	専門の先生方の助けを得ながらきめ細やかな生徒対応を行い、生徒の自己肯定感・自尊感情を向上させる。	教育相談事例などの記録をデータ化し、情報共有し、Assistenza を実行する。	情報のデータ化とAssistenza の実践	△
			学園 DX を推進することで、業務内容の改善に努める。	DX の推進	△
			さまざまなジャンルの専門家による研修の企画および外部研修への参加を促す。	各教員が研修で学んだことを実践する	△

3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	姉妹校をはじめとするカトリック学校園との協働や相互研修を通じて、学園教職員の教育的知見の深化を図る。園児・児童・生徒らの自主的・積極的な学びを刺激する教育技術の向上を学園全体として追求する。	教職員の研修や自己研鑽を積極的に支援するとともに、教職員間の研究会・親睦会の機会を増やす。	学校改革に向け、各教員が積極的な自己研鑽に努める。	学校改革・自己研鑽	△
			共学校に転校した姉妹校や他のカトリック学校の先生から学ぶため、交流の場を持つ。	積極的な交流	○
			生徒に備わっている力を生徒自らが発揮できるよう、教員が愛と忍耐を持って見守る。	愛と忍耐による見守り	△
4.学園教職員全体が、学園の未来とともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	施設更新計画を踏まえ、長期的な視野に基づく未来ビジョンの構築に着手する。学園教職員のさまざまな視点を取り入れて情勢分析を進め、未来ビジョンの精緻化を図る。	学園全体がオラトリオとなるよう尽力する	共学化を成功させるため、教職員が希望を持って、各人の持っている豊かさを寛大に出し合う。	共学化の成功	△
			生徒が城星オラトリオでのボランティア活動ができるよう、整える。	ボランティア活動への積極的参加	△
			新校舎建築に関心を持ち、必要な協力を惜しまない。	校種を超えた教師間の交流	○

5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	「城星ファミリー」の人びとの共感・理解を深められるよう、学園の未来ビジョンをより積極的に発信する。学園施設の貸出やイベントへの協力などを通じて、地域社会・教会関係の人びととの交流を深める。	「城星ファミリー」との関係を深め、教育活動面での具体的な協働の可能性を模索する。	後援会の協力に感謝し、教育活動面での具体的な協働の可能性を模索し、実行していく。	後援会との交流	△
			教会のイベントなどに生徒の積極的な参加を促す。	生徒の主体的活動	△
			学園が持つ施設を、地域社会や教会に貸し出し、交流を深め、開かれた学園を目指す。	開かれた学園	△

6.教育計画		自主的学びのできる生徒を育てるために、与えすぎの教育からの脱却をめざす。	「学びの森」がより探究的学びとなるよう、教員それぞれが研鑽を重ねる。	探究活動の実践	△
			生徒会が中心となって活動の場を広げる。	生徒の主体的活動	○

7.募集計画		広報活動の再設計を行い、学校のイベントへの参加者を増やす。		生徒数の確保	○
			入学者数 140 名を目指す。	生徒数の確保	△

3. 施設設備計画（報告）

教育環境整備の一環として、次の工事等を実施した。（５００万円以上のもの）

工事・設備等名称		執行金額（円）
①	幼稚園増築棟２階多目的室改修工事	60,500,000
②	幼稚園北側専用出入口設置等外構工事	15,179,395
③	高校棟トイレ改修工事に伴う解体工事	7,590,000
④	高校棟トイレ改修工事	39,017,000
⑤	小聖堂・旧修道院解体工事前払金	50,000,000
⑥	高校棟・旧中学校棟屋上人工芝敷設工事	11,550,000
⑦	幼稚園マイクロバス	8,570,410
合計		192,406,805

財務状況（報告）

令和6年度、小学校校舎増築工事の資金確保のため、幼稚園バス駐車場及びテニスコート敷地の売却を行い、例年になく事業活動収入を得た。しかしながら、教育活動収支は赤字であり、引き続き、各校種の適正な学費の設定、人件費比率の改善、各経費の見直し等を行っていくとともに、2025年度からの高校男女共学化を契機に、高校生徒数の安定確保を目指しながら収支の改善・安定を求めている。

